

終章

本自己点検・評価では、本学の現状を分析・評価し、今後の課題について検討を行った。その結果、本学の教育・研究を充実し、発展していくための方向性と方策が明確になった。

1. 理念・目的、教育目標の大学全体の達成状況

本学では、現在に至るまで、創立以来の伝統である教育と研究の両立を維持するとともに、医療現場で活躍する薬剤師を中心に、企業の研究・開発をはじめ、さまざまな分野で活躍する多数の卒業生を輩出してきた。生涯教育にも先駆的かつ積極的に取り組み、現在は、今後重要となる在宅医療を中心に各種研修会を開催するなど、地域に開かれた大学としてその活動の場を更に広げている。以上のことから本学の「大学の理念」、「教育目標」が達成できていると評価される。今後とも、時代の進歩に合わせて、「大学の理念」、「教育目標」を見直しながら、理念、目標に合わせた教育・研究を推進する。

2. 優先的に取り組むべき課題

本学が優先的に取り組むべき課題として下記の項目が挙げられる。

① 教員組織と教育活動の充実

大学設置基準に規定されている教授数の充足を進めるとともに、大きく変わりつつある薬剤師の役割に対応し、将来的に指導者として活躍できる人材の養成を行うため、量的、質的両面において教員組織の充実を図る。教員組織を充実することで、講義のクラス規模の問題の解決や能動的学修を積極的に採り入れた授業の改善へとつなげる。また、薬学部及び大学院薬学研究科のディプロマ・ポリシーを改定し、到達目標をより具体化する。

② 教育研究組織の見直し

大学院薬学研究科修士課程薬科学専攻の大学院学生数が収容定員を満たしていない。また、今後の少子化、薬剤師の需給バランスの変化を考えると、果たして6年制の薬学科1学科から構成される薬学部1学科の体制で将来的にも本学の大学としての社会的役割を十分に果たしていけるのか検討する必要がある。4年制の新たな学科の創設も含めた抜本的な方策の検討を行うことを計画している。

③ 他大学、医療機関等との連携

薬学部、大学院薬学研究科における教育・研究の質的充実のためには、近隣他大学、医療機関との連携は非常に重要であり、また、それは同時に、医療の進展や薬剤師の職能改善にもつながるものであるため、行政との連携も視野に入れながら、より一層推進していく。具体的には、現在すでに行われている神戸大学との連携については、医学部以外の学部との教育・研究両面での連携へも押し広げるよう努める。神戸市内、阪神地区の他大学、医療機関との教育・研究両面での連携も推進していくつもりである。さらに、地域住民への貢献も含めて、⑤に記載する本学住吉敷地（第7章、p.70に記載）の今後の活用計画に関しては地元薬剤師会との連携を推進する。

④ 学生の受け入れ方針の明確化

医療における薬剤師の職能は大きく変化しており、本学が求める入学生像も変化してい

る。一方、学生の将来的な社会での活動を考えると、多様な学生の存在も求められるところである。そのためには、アドミッション・ポリシーを改定することが必要であり、各入試を特色化し、それを反映するアドミッション・ポリシーを策定する。

⑤ 教育研究環境の整備

学生、教職員が安心して快適なキャンパスライフが送れるよう現在計画中の校舎の新築、耐震化を本学の中長期的展望と睨み合わせながら実施する。また、在宅医療研修や地域住民への健康相談施設として、住吉敷地に地域連携のための施設を建設することを計画する。

この施設は学生の教育にも連動させることを意図している。現在稼動していない六甲キャンパス（第7章、p.70に記載）の利用も①に記述した教育研究組織の見直しと関連させて検討する。

⑥ 教育・研究における国際交流の推進

協定を締結しているマサチューセッツ薬科健康科学大学との相互交流を進めるなど、実績を積み重ねているが、国際交流の基本方針に基づき中長期計画を策定し、その達成に向けて教育・研究に関する国際交流の取り組みを充実させる必要がある。

⑦ 内部質保証システムの充実

本学の内部質保証に深く関わる組織は自己点検・評価委員会及びFD委員会である。両委員会とも適正に活動を行っており、内部質保証システムは適切に機能している。ただし、大学院のFD活動については、より活発に行う必要がある。また、内部質保証システムをより公正なものとするためにも、両委員会に学外委員を置くことを検討する。また、IR委員会を新たに設置し、これまでのデータを解析し、学生の受け入れ方針、教育活動の改善につなげたい。

3. 今後の展望

薬系大学は今後、一段と少子化が進行すること、薬剤師の需給バランスの逆転が予想されるなかで厳しい時代を迎える。そのなかで本学が生き残っていくために必要な方策としては、「大学の理念」、「教育目標」にかなった教育・研究活動を行い、くすりの専門家として社会で活躍できる優れた人材を輩出すること、生涯教育のより一層の推進や各種関係機関と連携した教育・研究活動によって薬剤師の職能の向上に貢献すること、さらに、地域の健康相談にあたるなど地域に根ざした大学であることなどが挙げられる。今回の自己点検・評価の過程で明らかとなった課題について積極的に解決を図りながら、2015（平成27）年で創立83年となる本学が今後とも発展できるよう日々の改善に努めたい。